

—原著—

最近5年間における長岡赤十字病院歯科口腔外科新患患者の臨床統計的検討
成松花弥¹⁾, 小林孝憲^{1,2)}, 飯田明彦^{1,2)}, 上野山敦士^{1,2)}, 山田瑛子²⁾, 大貫尚志²⁾, 齋藤太郎²⁾,
安楽純子³⁾, 高木律男²⁾

¹⁾ 長岡赤十字病院 歯科口腔外科 (主任: 飯田明彦 部長)

²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野 (主任: 高木律男 教授)

³⁾ 三之町病院 歯科口腔外科 (主任: 安楽純子 科長)

A Clinico-statistical Study of New Outpatients during Last 5 Years in Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Red Cross Hospital

Kaya Narimatsu¹⁾, Takanori Kobayashi^{1,2)}, Akihiko Iida^{1,2)},
Atsushi Uenoyama^{1,2)}, Eiko Yamada²⁾, Hisashi Ohnuki²⁾, Taro Saito²⁾,
Junko Anraku³⁾, Ritsuo Takagi²⁾

¹⁾ *Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Red Cross Hospital (Chief: Dr. Akihiko Iida)*

²⁾ *Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Ritsuo Takagi)*

³⁾ *Department of Dentistry and Oral Surgery, Sannocho Hospital (Chief: Dr. Junko Anraku)*

平成 29 年 4 月 7 日受付 平成 29 年 5 月 5 日受理

キーワード: 病院歯科口腔外科, 外来新患, 臨床統計

Key words: hospital dentistry and oral surgery, new outpatients, clinico-statistical study

Abstract

A clinico-statistical study of new outpatients during the 5 years from 2011 to 2015 was performed, and the results were compared with the data from the previous 5 years (2006 to 2010).

The results were as follows:

1. The number of new outpatients was 10,056 in the last 5 years. Compared with the previous 5 years, the number increased by 14.1%.
2. From 2012, the number of patients over 60 years old continued to increase. In contrast, the number of patients under 60 years old remained stable.
3. The number of the patients from the Chuetsu area accounted for 97.0%; the number from Nagaoka City was 6,286 (62.5%) and from the Chuetsu area excluding Nagaoka City was 3,473 (34.5%).
4. The number of referral patients increased gradually in the last 5 years, and the referral rate was 85.6% in 2015.
5. Patients with dental disease were most common, and the number increased. The number of patients with oral and maxillofacial disease remained around 700 annually.

These results indicated that our department might play an important role in the management of oral and maxillofacial disease in the Chuetsu area because the referral rate was increasing and the demand for specialized medical services for oral and maxillofacial disease was stable. In addition, acceptance of cases requiring perioperative oral management from the medical department influenced this survey greatly. It was, therefore, concluded that a further enhancement of the collaboration with the general dentists and the medical department is important.

和文抄録

2011年1月から2015年12月の5年間における長岡赤十字病院歯科口腔外科の新患者について臨床統計的検討を行うとともに、2006年1月から2010年12月の5年間のデータと比較し、以下の結果を得た。

1. 対象期間中の新患総数は10,056名で、過去5年間から14.1%増加していた。
2. 年齢別では、2012年以降、60歳以上が増加した一方、60歳未満に大きな増減はなかった。
3. 居住地別では、中越地区が97.0%を占めており、その内訳は長岡市が6,286名(62.5%)、長岡市以外の中越地区が3,473名(34.5%)であった。
4. 紹介率は年々増加し、2015年には85.6%に達した。
5. 疾患別では、歯の疾患が最も多く、年々増加していた。いわゆる口腔外科疾患は各年700名程度と安定していた。

以上の結果、中越地区全域からの紹介が増加し、かつ高度な専門性を要する疾患は一定数が維持されていたことから、当科は中越地区における病院歯科口腔外科の拠点として機能しているものと思われた。また、年齢分布や院内紹介の増加から周術期口腔機能管理症例の増加が大きく影響しているものと考えられ、今後も病診連携、医科歯科連携の強化が重要と考えられた。

【緒 言】

長岡赤十字病院（以下、当院）は地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、救命救急センターなど種々の機能を有する、病床数649床の新潟県中越地区の急性期病院である。歯科口腔外科（以下、当科）は1980年代より日本口腔外科学会認定専門医が常勤し、専門的な口腔外科診療や有病者の歯科治療を行ってきた。また2011年7月以降は口唇裂・口蓋裂をはじめとする先天異常の積極的な治療を開始するとともに、2012年4月に行われた周術期口腔機能管理の保険導入に伴い周術期患者の口腔管理にも力を入れている。今回、当科の現状を把握するとともに、中越地区における病院歯科口腔外科として当科の担っている役割を検証するため、最近5年間の新患者の動向について臨床統計的に検討した。

【対象および方法】

2011年1月から2015年12月の5年間に当科を初診した新患者を対象とした。新患者は当科を初めて受診した患者および前回受診から1年以上経過し、新たな口腔外科疾患で受診した患者と定義し、新患者の年次推移、性別、年齢、居住地、紹介医療機関、疾患分類を調査した。疾患分類は、日本口腔外科学会口腔外科疾患調査の分類に準じたが、唾液腺良性腫瘍および唾液腺悪性腫瘍はそれぞれ良性腫瘍、悪性腫瘍として扱い、計15項目とした。また、それらの結果を過去の2006年1月から2010年12月の5年間の新患者8,812名のデータと比較した。

【結 果】

1. 新患者の年次推移と性別

対象期間における新患者総数は10,056名で、2006年から2010年の8,812名に比べ14.1%増加していた（図1）。年次推移では2011年から増加傾向を示し、2015年には2,236名と過去10年間で最も多かった。

性別では男性4,836名、女性5,220名、男女比は1:1.1で、過去5年間の1:1.2と同様の傾向であった。

2. 年齢別新患者

年齢別では、出生直後から90歳以上にわたり広く分布していたが、割合としては20歳代・30歳代と60歳代に二峰性のピークを示した（図2）。このうち、2011年は30歳代が最多であったが、2012年以降は60歳代へ移行し、2015年には60歳代が全体の17.3%を占めていた。一方で、新患者数としては60歳未満に大きな増減はなく、概ね安定していた。

3. 居住地別新患者

居住地別では、5年間の合計で中越地区が9,759名(97.0%)を占めており、その内訳は長岡市が6,286名(62.5%)、長岡市以外の中越地区が3,473名(34.5%)であった（図3）。

4. 紹介率および紹介医療機関別新患者

紹介率は年々増加傾向にあり、2015年の院外紹介率は78.8%、院内紹介を含めた全体の紹介率は85.6%であった。

紹介医療機関については、歯科診療所からの紹介が最多で、その傾向は各年を通して変わらず、院内他科が続いた（図4）。病院歯科からは毎年40名前後と一定数の紹介があった。また、院内紹介が2012年以降増加し、2011年は297名であったものが、2015年には722名に達した。